

扇町小学校には現在 14 名の児童（1 年 2 名，2 年 3 名，3 年 4 名，5 年 3 名，6 年 2 名）が在籍しており、自立活動として、言語指導のほか、異学年集団による自己認識を深めるための話し合いや「ゲーム大会」などを行っています。ここでは、「ゲーム大会」について紹介します。

「ゲーム大会」は、週に 1 回、曜日と時間を決めて取り組んでおり、聞こえにくい児童が多数在籍しているセンター校ならではの取り組みと言えます。

この活動は、「縦の繋がりを強化する」（孤独を感じない、仲良くなる）といった「仲間づくり」を目的としています。また、自己認識をテーマにした話し合い活動の際の関係づくりにも繋がっています(後述)。

子どもたちはこの「ゲーム大会」の時間を毎回心待ちにしており、教室ではなかなか体験することのない司会進行を積極的に行ったり、高学年の児童が低学年の児童をサポートしたりと、全員で協力しながら活動に取り組んでいます。活動の際、子どもたちは仲間と過ごすことで安心感を得るとともに、司会進行をすることで「自分にもできる」という自信を持てる機会にもなっています。



ボウリング



キャッチボール

上の写真は「ゲーム大会」でのひとコマです。子どもたちは、2 チームに分かれて対抗戦で色々なゲームを楽しみます。その際、低学年の児童には、ハンディをつけたり、高学年がゲームのコツを伝授したりするほほえましい姿が見られます。

「ゲーム大会」での交流を行うことが、なぜ話し合い活動の際の関係づくりに繋がるのでしょうか。自己認識をテーマにした異学年集団の話し合い活動の際に、聞こえにくい児童が発表したことや、それについての様々な解決方法を、他学年の児童が発表しますが、その時に、その様子を一生懸命聞こうとする姿が児童に見られます。「ゲーム大会」の活動を通して、全員で準備から道具の設置・片付けまで助け合いながら行うことや、楽しい時間を共有することが、学年を超えて繋がりを深めているからだと言えます。

この取り組みについては、今後も引き続き行っていきたいと思います。